

国内クレジット認証委員会御中

実績確認概要書

平成 22 年 3 月 8 日

審査機関名 SGS ジャパン株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	キュポラから高周波誘導炉への溶解炉の変更による CO2 排出削減事業
承認番号	JCDM-PJ0103
排出削減事業者名	株式会社イトー鋳造
排出削減共同実施事業者名	丸紅株式会社
事業実施場所	㈱イトー鋳造 川尻工場 (秋田県川尻町字大川反 170-73)
事業の概要	イトー鋳造川尻工場ではコークスを燃料とするキュポラ溶解炉を利用しており、燃焼時には二酸化炭素を含む排出ガスが多量に発生していた。 このキュポラ溶解炉から、高周波誘導炉に変更することにより、CO2 排出量を削減するものである。
排出削減量の計画	1,673 tCO2/年 (事業実施期間合計 8,246tCO2)
国内クレジット 認証期間	開始日 2008 年 5 月 16 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 003 工業炉の更新

2. 本実績確認の対象期間

2008 年 5 月 16 日～2009 年 12 月 31 日 (第 1 回目実績報告)

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画の「モニタリング対象指標のQA/QC」に基づき算定されており、適正であることを確認した。

排出削減量	2,538t-CO ₂
--------------	------------------------

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること	<p>1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 排出削減事業計画通り、事業が開始されていることを確認した。 2008年5月16日</p> <p>2) 対象期間中の設備稼働確認 更新後の高周波誘導炉は実績確認期間中継続的に稼働していることを確認した。</p>
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	<p>排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていることを確認した。</p> <p>1) モニタリング方法の確認 承認排出削減事業計画に従って、更新後の高周波誘導炉が導入されていること、及び本実績期間において稼働していることを、モニタリング対象指標の実績により確認した。 具体的には、排出削減実施後の電力使用量については、担当者が、高周波炉操業記録を記録し、電力量管理表に集計するとともに、電力会社から毎月送付される「電気料金請求書」を保管している。 実施後の生産量についても、適切に月次生産実績表を記録、集計している。 そのデータを元に正確に集計されていることを、証拠との突合、検算などにより確認した。</p> <p>2) 活動量の正確性 承認排出削減計画から変更が無いことを、証拠により確認した。</p>

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認</p> <p>排出削減量の算定式及び使用されている活動量、排出係数等が方法論（排出削減方法論について：別表）及び承認排出削減事業計画に従っていることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>事業実施後排出量、ベースライン排出量は、方法論及び承認排出削減事業計画に従って適切に計算され、算定結果は正確であることを確認した。</p>
<p>算定期間が 2013 年 3 月 31 日を超えないこと</p>	<p>算定期間は 2009 年 12 月 31 日までであり、2013 年 3 月 31 日を超えていない。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価（該当する場合）

確認した排出削減量（クレジット量）に相当する省エネ量について、原油換算 -490.1klであることを確認した。原油換算量では、事業実施前に比べて事業実施後の量が増加しているが、炭素排出係数が低い電力に更新されたため、CO2排出量は削減している。

以上